

こうや清 県政レポート

民主党かながわクラブ保土ヶ谷区版

民主党かながわクラブ

横浜市保土ヶ谷区版

(平成27年冬季号)

横浜市保土ヶ谷区西谷町 623

TEL 383-1290

FAX 383-1291

kohya.kiyoshi@gmail.com

www.kohya-kiyoshi.com

発行責任者： 高谷 憲

こうや清, 4年ぶりの本会議登壇!

高齢者施策の充実強化を知事に迫る

第3回定例県議会閉幕

補正予算案など36議案を採決し、第3回定例会が12月22日閉幕しました。

12月9日、高谷県議は締めくくりに本会議一般質問に立ちました。今回の質問は団塊の世代の高谷が、30分の持ち時間のほとんどを高齢者施策の充実強化策に当て、4年ぶりの「こうや節」が議場に鳴り響き、元気づけをアピールしました。

知事は真摯に高谷演説に聞き入り、積極的で前向きな答弁をしていました。

質問と答弁(要旨)

一、高齢者に目を向けた取組みについて

① 高齢者を呼び込む観光施策について

【高谷】平日に旅行することが多い高齢者は友人や知人に口コミで情報を広げていきます。彼らの発信力を活かした観光施策が大事だ。高齢者への来訪促進策を問う。

【知事】帰ってから話題

づくりになるよう、撮影した写真をすぐにプリントしてお土産として配るなどの取組を旅行会社と連携して検討します。

② 後発医薬品の使用促進について

進について

【高谷】本県は健康長寿日本一を目指しています。大いに期待するところだが、高齢化が進むほ

ど医療を受ける機会も増加し高齢者の医療費負担も増大します。先発医薬品の特許が切れ、同様の成分で製造される後発医薬品(ジェネリック医薬品)は効能がほとんど同じながら薬価は3割から4割も安いいため私も助かっています。医療費負担の大きい高齢者家庭においては家計にやさしい後発医薬品の使用促進に関する本県の現状と課題、今後の取組方針について伺う。

【知事】高齢化が全国平均を上回るスピードで進む本県においてご指摘のように、後発医薬品の使用促進は患者負担の軽減はもとより、医療費の抑制面でも大変重要です。県では後発医薬品の使用による薬代の負担軽減効果などを具体的に示した啓発リーフレットの作成や、老人クラブ等を対象にした講習会の開催などに取り組めます。

③ 第34回全国健康福祉祭(ねんりんピック)について

【高谷】東京オリンピックの翌年、2021年に本県で開催するねんりんピックは60歳以上の高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典で、高齢者のスポーツ振興への機運が高まる絶好のチャンスです。「未病を治す」取組を重点的に進める本県ではねんりんピックの開催に向け、どのように取り組んでいくのか知事の所見を伺う。

【知事】ねんりんピックの関連事業として、さまざまな未病を治すイベントを展開するとともに、県の観光情報や文化芸術の取組を積極的にPRします。これらの取組により、高齢者はもとより、幅広い世代の方々が楽しめ、交流できる神奈川ならではのねんりんピックの開催を目指します。

二、県民の安全・安心対策について

① 空き家対策の市町村への支援について

【高谷】この4年間保土ヶ谷区内をくまなく歩いた私は空き家が多くなったことを実感しています。防犯や衛生、景観で困っているとの苦情も聞いた。(裏面に続く)



空き家対策を進めるには市町村をしつかり支援する県の役割が重要だ。県はどのように支援していくのか。

【県土整備局長】県は、市町村が空き家の実態調査を行うに当たって参考となる県営水道の休止情報を企業庁と連携して、これまで要望のあった13市町に提供し、市町村への取組を支援します。さらに、全市町村で構成する行政実務者会議を本年5月に設置しました。今後も、県は空家等対策計画が進むよう、市町村の意見を聞くとともに、他の先行事例を参考にし、モデル計画を作成するなど市町村の取組をしつかりと支援してまいります。

②地籍調査の市町村への支援について

【高谷】神奈川県は都市化が進み、細分化され、権利関係も複雑、筆数も多いため、本県の地籍調査の進捗率は平成26年末で全国の51%に比して13%と極めて低い。東日本大震災の被災地では実施していた地域では復旧復興にあたって用地測量に関する費用や期間が大幅に短縮されるなどその重要性が再認識されたところです。地籍調査を促進するための市町村への支援をどのように進めていくのか。

【知事】県内の全市町村で構成する神奈川県国土調査推進協議会の事務局として市町村職員を対象とした実務研修の開催や、現地視察研修など、市町村への支援を積極的に行ってきた結果、調査を実施する市町村は5年前と比較すると14市町から25市町に拡大しています。

国が国土調査法を改正して、平成24年から市町村が実施している業務の多くを地籍調査に精通した測量会社等へ委託できる新たな制度を創設したのを受け、運用方法を市町村と調査検討、基本的な考え方を整理した結果、今年度から横須賀市と鎌倉市で実施することになりました。

この新たな制度は、市町村の人的負担の軽減に大きな

効果が期待できることから、円滑に実施できるよう、引き続き支援してまいります。

(以上)

がんセンターに重粒子線治療棟オープン 国内で5番目、20年来の県政の悲願達成

専門病院併設は初

岡崎、松沢、黒岩知事、三代の知事にまたがり、県議会もがん撲滅議員連盟を結成してその実現に取り組んできた重粒子線治療棟が二俣川の県立がんセンターに隣接して（運転免許試験場の駐車場跡地）12月5日オープンしました。

重粒子線治療は1994年、日本で生まれた最新鋭

のがん治療で、世界にはなく、現在群馬大学附属病院、千葉市にある放射線医学総合研究所、兵庫県と熊本県の粒子線治療センターの4施設で全世界からがん患者が治療を受けに訪れていますが、県立がんセンターというがん専門病院に併設されたのは神奈川県が初めてです。通常のがん治療と一体でより効果的で充実した治療ができると今から注目を集めています。

がん患者には願ってもない朗報ですが、保険が効か

県、治療費一割補助を補正予算に計上

ないので314万円と高額なことが難点です。神奈川県では1割の補助を今回の補正予算で計上しました。

県議会も当局と一体となって患者さんの負担減のため保険適用するよう国に強く働きかけていきます。

感謝の集い(後援会忘年会) 盛大に開催さる

12月6日、こうや清後援会の「平成27年度感謝の集い(忘年会)」が、後援会2代目会長、故山泉恵寿氏の「広美」で盛大に開催されました。

高谷県議にとつて生涯忘れられない最良の年。正に感謝となった今年の忘年会は悲壮感漂う昨年とは打って変わって参加者一同満面の笑みと気持ちも和み、多くの方々から豪華なお品を寄贈していただいた超素晴らしい抽選会も復活し、かつてない盛り上がった忘年会となりました。

御礼に立った高谷県議は、4年間の苦しかった思いがよぎったのか、声も詰まり感涙に咽びながら「勝つぞ!との気合いとは裏腹に不安で一杯だった昨年とは正に天と地、皆さんのお陰で私を天に押し上げて頂きました!」「これからも皆さんのための県政実現に努力邁進します!」と喜びを爆発していました。

募集中!



平成28年新春初詣

○日時 1月31日(日)

○行先 ・身曾岐神社

八ヶ岳山麓に鎮座する古神道本宮

・清里高原ホテル

○会費 8,500円

○人員 80名